

鎌倉～戦国時代をめぐる 小倉城跡周辺案内図



8 慈光寺
奈良時代、鑑真和尚の高弟であった道忠によって開かれたと伝えられ、後に「天台別院一乗法華院」とも称されました。鎌倉時代には「一山七十五坊」を擁する一大山岳寺院として北関東一帯に絶大なる寺院勢力を誇示していました。その背景には武蔵武士の畠山氏の経済的・政治的な基盤があったことが考えられます。その後、源頼朝などの篤い信仰もあり、より一層の隆盛を誇りました。慈光寺には、法華経一品経（国宝）、慈光寺開山塔（国指定重要文化財）、銅鐘（国指定重要文化財）など、こういった歴史を物語る多くの文化財が伝えられています。



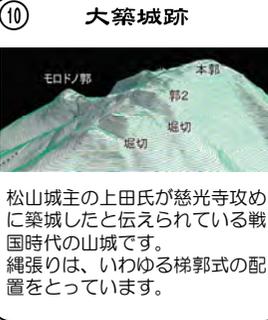
7 円通寺板碑
天文22年(1553)に個人ではなく集団で造立が行われたことを示す結衆板碑です。中世においてこの地域の人々が共同体として造立に携わっていたことを示しています。



**6 国指定史跡
下里・青山板碑製作遺跡**
緑泥石片岩製の板碑の石材採掘から加工までの工程が明らかになった、中世の板碑の製作遺跡です。



9 青石塔婆
慈光寺山門跡に建つ鎌倉～室町時代の緑泥石片岩製の板碑群です。大小8基が並ぶ現在の景観は、江戸時代後期に慈光寺山内から集められたものです。



10 大築城跡
松山城主の上田氏が慈光寺攻めに築城したと伝えられている戦国時代の山城です。縄張り、いわゆる梯郭式の配置をとっています。



5 伝曾我十郎祐成供養塔
康永3年(1343)の緑泥石片岩製の板碑で、高さは約1.8mあります。地元では曾我兄弟にまつわる供養塔とされています。



1 国指定史跡管谷館跡
鎌倉時代の武蔵武士である畠山重忠の居館と伝えられています。現在残っているのは戦国時代の城跡です。



2 大蔵館跡
仁平3年(1153)に木曾義仲の父・源義賢が秩父重隆の娘をめぐり、移り住んだ館跡とされています。



3 伝木曾義仲産湯の清水
義仲は、鎌形地区にあった館で生まれたと伝えられ、近隣の7つの清水から産湯を沸かした話があります。現在は神社に残るものが唯一となりました。

- 【凡例】
- お食事処（町有観光施設）
 - 日帰り温泉
 - 農産物直売所



ときがわ町ホームページ
「観光施設」



4 木造阿弥陀如来坐像
龍福寺阿弥陀堂に安置されている本尊仏で、様式から鎌倉時代前半の制作と考えられます。平成の解体修理時に貞和3年(1347)の墨書修理銘文が確認されました。

